

### 中本正智博士年譜 / 研究業績一覧

名嘉真, 三成

---

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

18-19

(開始ページ / Start Page)

98

(終了ページ / End Page)

103

(発行年 / Year)

1995-02-24

## 中本正智博士年譜

- 1936年（昭和11） 1月16日、沖縄県玉城村奥武島にて生まれる。
- 1955年（ ♫ 30） 沖縄県立知念高等学校卒業。
- 1956年（ ♫ 31） 琉球大学文理学部国語国文学科入学。
- 1957年（ ♫ 32） 4月、服部四郎博士の集中講義を契機にして「琉球方言研究クラブ」が発足し、中本正智氏も5人のメンバーの一員となる。
- 1958年（ ♫ 33） 12月にクラブ機関誌『琉球方言』創刊号が発行され、中本氏の「奥武方言動詞の活用」が発表される。宮良當壮氏の集中講義を受講する。
- 1959年（ ♫ 34） 「琉球方言研究クラブ」の第2代目の部長となる。8月、座間味村慶留間島へ部員と一緒に調査旅行する。
- 1960年（ ♫ 35） 3月、琉球大学文理学部国語国文学科卒業。同年4月から琉球大学文理学部国語国文学科の研究生となり、仲宗根政善先生の指導を受ける。
- 1961年（ ♫ 36） 琉球大学文理学部国語国文学科研究生を3月に修了。同年4月、比嘉政夫氏と一緒に東京大学文学部言語学科研修生となり、服部四郎博士の指導を受ける。
- 1962年（ ♫ 37） 3月に東京大学文学部言語学科研修生修了。4月、東京都立大学大学院人文科学研究科国文学（修士課程）入学。
- 1964年（ ♫ 39） 3月、東京都立大学大学院人文科学研究科国文学（修士課程）修了。同じく3月に平山輝男博士と共著にて、『琉球と那国方言の研究』（東京堂）を出版する。4月、東京都立大学大学院人文科学研究科国文学（博士課程）入学。
- 1966年（ ♫ 41） 平山輝男博士・大島一郎氏と共著にて、3月に『琉球方言の総合的研究』（明治書院）を出版する。
- 1967年（ ♫ 42） 3月、平山輝男博士・大島一郎氏と『琉球先島方言の総合的研究』（明治書院）を出版。4月、日本学術振興会奨励研究員（1968年3月まで）になる。同じく4月に千葉大学文理学部非常勤講師（1969年3月まで）となる。
- 1968年（ ♫ 43） 東京都立大学大学院人文科学研究科国文学（博士課程）を3月に単位取得の上退学する。4月から東京都立大学人文学部助手、また日本方言研究会幹事となる。
- 1973年（ ♫ 48） 4月、東京都立大学人文学部助教授に昇進する。同じく、4月、法政大学沖縄文化研究所委託研究員になる。

- 1975年（ㄨ 50） 『琉球の方言（1）』（10月、法政大学沖縄文化研究所）を共著して発刊する。
- 1976年（ㄨ 51） 『琉球方言音韻の研究』（3月、法政大学出版局）を出版。同著にて第4回伊波普猷賞を受賞する。同年から日本語学会会員（編集委員）、国語学会会員、日本民族学会会員、南島史学会会員（編集委員）、九学会連合言語学会調査員、都立大方言学会世話人、『日本語研究』編集責任者、などとして諸学会に貢献する。『琉球の方言（2）』（11月、法政大学沖縄文化研究所）を共著にて発刊（以下（3）（4）（5）を1978年まで発行）する。
- 1978年（ㄨ 53） 4月から沖縄国際大学南島文化研究所委託研究員となる。また、東京大学、金沢大学、高知女子大学、信州大学、法政大学等で非常勤講師として教育に携わる。同4月、沖縄文化協会理事。『日本語研究（1）』（3月、都立大國語学研究室）を発刊する。以後、毎年のように発行する。
- 1980年（ㄨ 55） 『日本語の表現と構造』（3月、エポナ出版）を出版する。
- 1981年（ㄨ 56） 『日本語の原景—日本列島の言語学—』（3月、力富書房金鶏社）を出版。また11月に『図説琉球語辞典』（力富書房）を出版し、第3回沖縄研究奨励賞を受賞する。
- 1982年（ㄨ 57） 『図説琉球語辞典』にて第36回毎日出版文化賞を受賞。
- 1983年（ㄨ 58） 『琉球語彙史の研究』（4月、三一書房）を出版する。
- 1984年（ㄨ 59） 比嘉実氏と共著にて、『沖縄風物誌』（6月、大修館書店）を出版する。また、外間守善氏らと『日本語学要説』（4月、朝倉書店）を出版。
- 1985年（ㄨ 60） 7月、『日本語の系譜』（青土社）を出版する。
- 1987年（ㄨ 62） 4月、東京都立大学文学部教授に昇進する。
- 1988年（ㄨ 63） 琉球大学教育学部で集中講義を行う。
- 1989年（平成1） 「日本列島言語史の研究」にて、東京都立大学より「文学博士」の学位を取得する。10月、在外研究員としてオーストラリアに滞在し、研究に従事する。
- 1990年（ㄨ 2） 5月に博士学位論文『日本列島言語史の研究』（大修館書店）を出版。また、「失われた集落・小湾—聞き取りによる復元—」（法政大学沖縄文化研究所）の言語班の調査委員長となる。
- 1991年（ㄨ 3） 劉麗氏と『日本語と中国語の対照研究』（3月、学術情報）を出版する。
- 1992年（ㄨ 4） 「浦添市小湾方言の素描」を『琉球の方言（16）』（3月、法政大学沖縄文化研究所）に発表する。研究のため体調を崩す。
- 1994年（ㄨ 6） 2月24日、不帰の人となる。

## 中本正智博士研究業績一覧

著書、学術論文等の名称 発行又は発表の年 発行所、発表雑誌等の順に示す。

### 一著 書一

- 1) 『琉球与那国方言の研究』(共著) 1964 東京堂
- 2) 『伊豆諸島方言の研究』(共著) 1965 明治書院
- 3) 『琉球方言の総合的研究』(共著) 1966 明治書院
- 4) 『琉球先島方言の総合的研究』(共著) 1967 明治書院
- 5) 『五島列島の方言』(共著) 1969 都立大都市研究委員会
- 6) 『薩南諸島の総合的研究』(共著) 1969 明治書院
- 7) 『方言体系変化の通時論的研究』(共著) 1974 明治書院
- 8) 『琉球の方言(1)』(共著) 1975 法政大学沖縄文化研究所
- 9) 『琉球方言音韻の研究』(単著) 1976 法政大学出版社
- 10) 『琉球の方言(2)』(共著) 1976 法政大学沖縄文化研究所
- 11) 『琉球の方言(3)』(共著) 1977 法政大学沖縄文化研究所
- 12) 『日本言語学概論』(共著) 1978 法政大学通信教育
- 13) 『琉球の方言(4)』(共著) 1978 法政大学沖縄文化研究所
- 14) 『琉球の方言(5)』(共著) 1978 法政大学沖縄文化研究所
- 15) 『新・海上の道』(共著) 1978 黒潮文化の会・角川書店
- 16) 『全国方言基礎語彙の研究序説』(共著) 1978 明治書院
- 17) 『黒潮の民族・文化・言語』(共著) 1980 黒潮文化の会・角川書店
- 18) 『日本語の表現と構造』(単著) 1980 エポナ出版
- 19) 『日本語の原景—日本列島の言語学—』(単著) 1981 力富書房
- 20) 『琉球の方言・久米島の方言』(共著) 1981 法政大学沖縄文化研究所
- 21) 『図説琉球語辞典』(単著) 1981 力富書房
- 22) 『琉球の言語と文化・仲宗根政善先生古稀記念』(共著) 1982 論集刊行委員会
- 23) 『琉球の方言・奄美沖永良部島の方言』(共著) 1982 法政大学沖縄文化研究所
- 24) 『琉球語彙史の研究』(単著) 1983 三一書房
- 25) 『日本言語学要説』(共著) 1984 朝倉書房
- 26) 『沖縄風物誌』(共著) 1984 大修館書店
- 27) 『日本語の系譜』(単著) 1985 青土社
- 28) 『日本列島言語史の研究』(単著) 1990 大修館書店
- 29) 『日本語と中国語の対照研究』(共著) 1991 学術情報

## 一論文一

- 1) 「奥武方言の動詞の活用」(単著) 1958 『琉球方言』創刊号
- 2) 「沖縄南部の1・2音節語のアクセント」(単著) 1960 『国語学』41
- 3) 「琉球方言母音体系の生成過程」(単著) 1970 『日本方言研究会原稿集』
- 4) 「K音考」(単著) 1970 『方言研究の問題点』
- 5) 「琉球方言の母音体系生成過程—3母音化を中心に—」(単著) 1971 『国語学』85
- 6) 「動詞語彙の記述」(単著) 1973 『人文学報』96
- 7) 「母音変化と音節統合」(単著) 1975 『人文学報』104
- 8) 「牛の判型・屋判」(単著) 1975 『沖縄文化』44
- 9) 「言語学者としての伊波普猷」(単著) 1976 『沖縄学の黎明』
- 10) 「古代ハ行P音残存の要因—琉球に分布するP音について—」(単著) 1976 『国語学』107
- 11) 「タ行音の構造的推移」(単著) 1977 『人文学報』117
- 12) 「親族語彙“父母”“祖父母”について」(単著) 1978 『都大論究』15
- 13) 「指示代名詞の構造と祖形」(単著) 1978 『沖縄文化』50
- 14) 「沖縄の親族語彙」(単著) 1978 『日本方言の語彙』三省堂
- 15) 「語彙の意味論的研究序説」(単著) 1978 『日本語研究』1
- 16) 「首里王朝の言語(1)」(単著) 1978 『琉球の方言』4
- 17) 「琉球方言動詞“書く”の活用」(単著) 1979 『人文学報』132
- 18) 「隔絶された日本語琉球方言」(単著) 1979 『都大論究』16
- 19) 「人間関係の性・年齢・親疎等を基準とする語彙」(単著) 1979 『琉球の方言』5
- 20) 「琉球方言の分布図」(単著) 1979 『琉球の方言』5
- 21) 「移動に関する動詞語彙」(単著) 1979 『日本語研究』2
- 22) 「火や熱に関する動詞の意味記述」(単著) 1980 『日本語研究』3
- 23) 「八丈島方言の研究—語彙的特色と人体語彙—」(単著) 1980 『日本語研究』3
- 24) 「生物に関する語彙—動物の名称と文化史—」(単著) 1981 『人文学報』146
- 25) 「年を表わす語彙の構造」(単著) 1981 『都大論究』18
- 26) 「原琉球語をたどる—鯨・蜻蛉・蚊など—」(単著) 1982 『南島史学』19 南島史学会
- 27) 「日にちに関する語彙」(単著) 1982 『琉球の言語と文化』仲宗根政善先生古稀記念
- 28) 「国語学会の展望—方言—」(単著) 1982 『国語学』129
- 29) 「東京文化と沖縄文化」(単著) 1982 『言語』126 大修館書店
- 30) 「琉球方言の成立と時代層」(単著) 1982 『国文学解釈と鑑賞』47-9 至文堂
- 31) 「ウミンチュの生活語彙—海洋関係の語彙—」(単著) 1982 『沖縄久米島』弘文堂
- 32) 「沖縄久米島における国語教育」(単著) 1982 『沖縄久米島』弘文堂
- 33) 「図説琉球語辞典の方法」(単著) 1982 『沖縄文化』59 沖縄文化協会

- 34) 「琉球語の研究は日本語の歴史にどう関わるか」(単著) 1982 『国文学』27-16 学燈社
- 35) 「じゃんけんー東京及び周辺ー」(単著) 1982 『日本語研究』5
- 36) 「琉球民族はどこから来たか」(単著) 1983 『琉球方言と周辺のことば』千葉大学教養部
- 37) 「南島語と地名」(単著) 1983 『歴史公論』86 雄山閣
- 38) 「琉球語のサ変動詞”為る”の活用」(単著) 1983 『人文学報』160
- 39) 「琉球語についてー日本語の中での位置づけー」(単著) 1983 『沖縄の古代文化』小学館
- 40) 「琉球語概説」(単著) 1983 『言語』135 大修館書店
- 41) 「九州・沖縄ー方言における待遇表現ー」(単著) 1983 『武蔵野文学』31 武蔵野書院
- 42) 「沖縄の遊び」(単著) 1983 『言語』143 大修館書店
- 43) 「八丈島の文法」(単著) 1984 『国文学解釈と鑑賞』49-1 至文堂
- 44) 「火熱に関する動詞語彙」(単著) 1984 『現代方言学の課題』明治書院
- 45) 「沖縄の季節」(単著) 1984 『言語』145 大修館書店
- 46) 「南島方言の語彙」(単著) 1984 『講座方言学』国書刊行会
- 47) 「南島方言概説」(単著) 1984 『講座方言学』国書刊行会
- 48) 「沖縄本島首里と恩納のアクセント」(共著) 1985 『琉球の方言(13)』法政大学沖縄文化研究所
- 49) 「琉球列島二段系動詞「起きる」の活用」(単著) 1985 『琉球の方言(13)』法政大学沖縄文化研究所
- 50) 「『琉球語辞典』編纂上の問題点」(単著) 1990 『琉球の方言(15)』法政大学沖縄文化研究所
- 51) 「失われた村落・小湾の言語調査」(単著) 1990 『琉球の方言(15)』法政大学沖縄文化研究所
- 52) 「浦添市小湾方言の素描」 1991 『琉球の方言(16)』法政大学沖縄文化研究所

ーその他ー

- 1) 「方言研究の文献解題と方言資料の紹介」1969 『国文学解釈と鑑賞』至文堂
- 2) 「座談会・沖縄の方言と沖縄学」1972 『言語生活』筑摩書房
- 3) 「沖縄の言語研究史」1972 『沖縄文化論叢 言語論』平凡社
- 4) 「琉球方言研究の展望と今後の問題点」1973 『沖縄タイムス』(3月16日)
- 5) 「『おもしろ語辞典』紹介」1974 『国語学』103

- 6) 「伊波普猷の時代と現代」 1976 『伊波普猷全集』月報 4
- 7) 「琉球方言」 1975 『現代日本語の音声と方言』
- 8) 「言語学」 1975 『沖縄県史』文化 1
- 9) 「『方言と標準語』紹介」 1975 『国語学』117
- 10) 「沖縄学の潮流と展開」 1976 『琉球新報』(4月21・22日付)
- 11) 「琉球方言」 1976 『音声学大辞典』
- 12) 「チェンバレン」 1976 『沖縄近代史辞典』
- 13) 「那覇方言概説」 1976 『沖縄近代史辞典』
- 14) 「南島方言史攷」 1976 『沖縄近代史辞典』
- 15) 「シンポジウム黒潮列島の古代文化」 1977 黒潮文化の会・角川書店
- 16) 「紹介『南島方言の記述的研究』」 1979 『国語学』117
- 17) 「琉球語の辞書」 1980 『言語』5 大修館書店
- 18) 「有気音」 1980 『国語学大辞典』東京堂
- 19) 「琉球語源辞典をめざして」 1980 『南島史学』16 南島史学会
- 20) 「語源について」 1980 『宮良当社全集月報 4』 第一書房
- 21) 「琉球語をさかのぼる」 1981 『読売新聞』(11月30日付) 読売新聞社
- 22) 「日本語”朝”の古層」 1982 『翻訳の世界』64 日本翻訳家養成センター
- 23) 「琉球語辞典をめぐる」 1982 『歴史読本』27-3 新人物往来社
- 24) 「座談会＝南島研究をめぐる」 1982 『国文学解釈と鑑賞』47-9 至文堂
- 25) 「座談会 二極を持つもの、鳥びとのことばと暮らし」 1982 『言語生活』368 筑摩書房
- 26) 「言語学者との一時間」 1983 『言語』133 大修館書店
- 27) 「座談会沖縄学への招待」 1983 『言語』135 大修館書店
- 28) 「琉球語の方言分布」 1983 『言語』135 大修館書店
- 29) 「琉球語の方言分布解説」 1983 『言語』135 大修館書店
- 30) 「沖縄のキーワード」 1983 『言語』135 大修館書店
- 31) 「私の研究－琉球語から原日本語を探る」 1983 『読売新聞』(4月14日付) 夕刊 読売新聞社
- 32) 「唐獅子」(25回連載) 1982.7～1983.6 『沖縄タイムス』沖縄タイムス社
- 33) 「風土のはぐくんだ言葉」(28回連載) 1983.8～1984.2 『琉球新報』琉球新報社
- 34) 「読書評論『沖縄の方言』」 1984 『琉球新報』琉球新報社
- 35) 「国とことば(1)～(3)」 1990 『琉球新報』琉球新報社



中本正智博士